

平成22年10月13日
独立行政法人
日本原子力研究開発機構
敦賀本部

高速増殖原型炉もんじゅの炉内中継装置落下に係る状況について

高速増殖原型炉もんじゅは、燃料交換作業の後片付け作業中に発生した炉内中継装置の落下について原因調査等を進めております。

原子炉容器から炉内中継装置の引抜きについて、ノイズによる「荷重超過」の誤警報により10月4日から作業を中断していましたが、ノイズの抑制対策の実施及びその検証試験を終了し、対策に問題のないことを確認しました。

【10月12日お知らせ済み】

本日10時05分、原子炉容器から炉内中継装置の引抜き作業を再開いたしました。

炉内中継装置の引抜きにあたり、原子炉機器輸送ケーシングのグリッパの手動あるいは低速の電動による吊上げ操作、グリッパ荷重値の詳細な確認などを行いながら慎重に作業を進めていましたが、13時01分、現場操作盤において「荷重超過」の警報（グリッパ荷重の指示値の増加）が発報しました。警報発報に際し、予め定めた手順（荷重警報の設定値を100kgずつ上げて引抜く操作を繰り返す）によって作業を継続しましたが、引抜けないことから、19時20分、引抜き作業を中断いたしました。本日、炉内中継装置を元の位置に戻し、ドアバルブを閉め、作業を終了いたします。

今後、どのような状況が想定されるか評価したうえで、対策を検討し、改めて炉内中継装置本体の引抜き作業に着手いたします。

以上